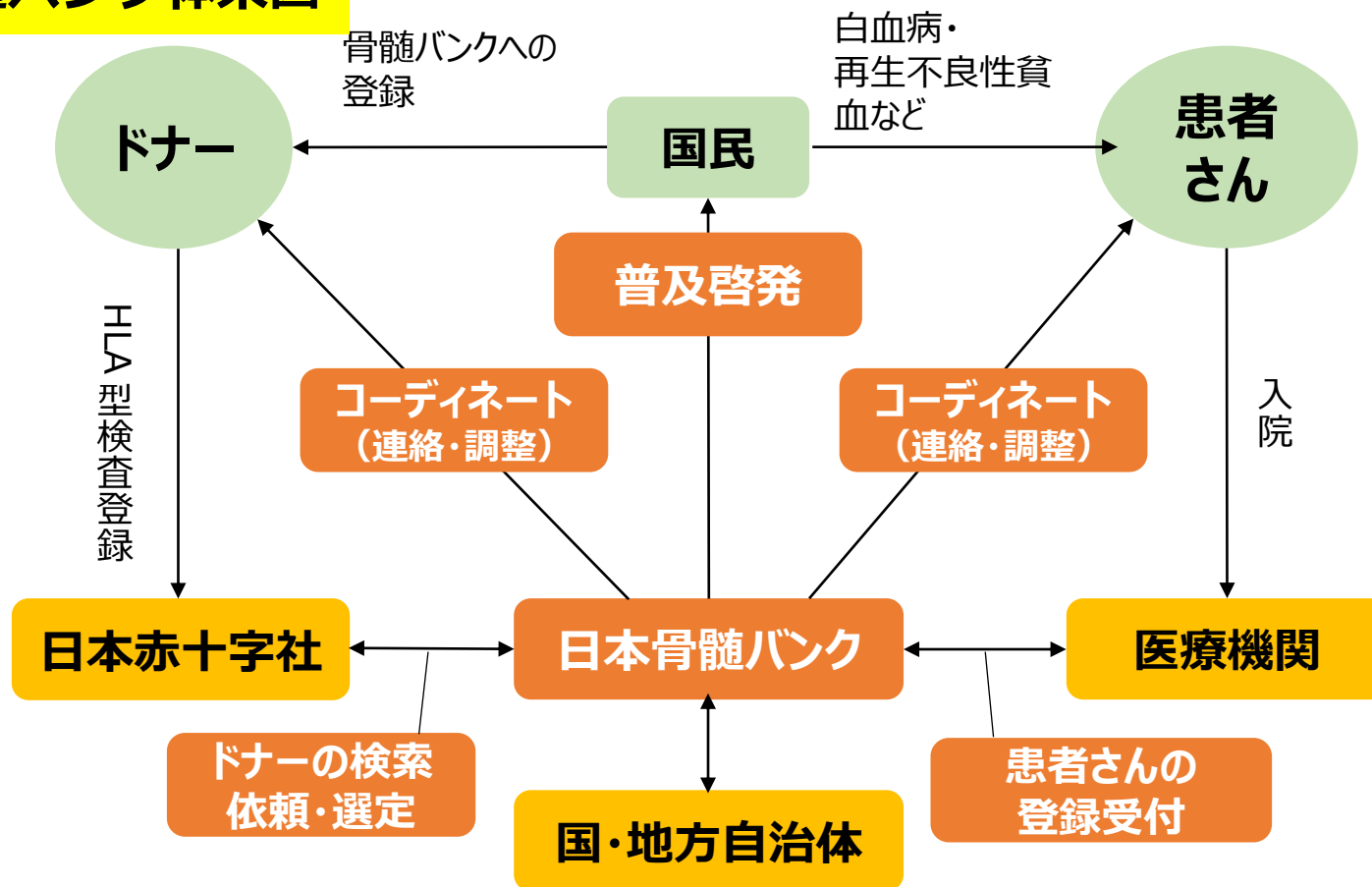


骨髄バンクの現状と課題



JMDP
日本骨髄バンク

日本骨髄バンク体系図



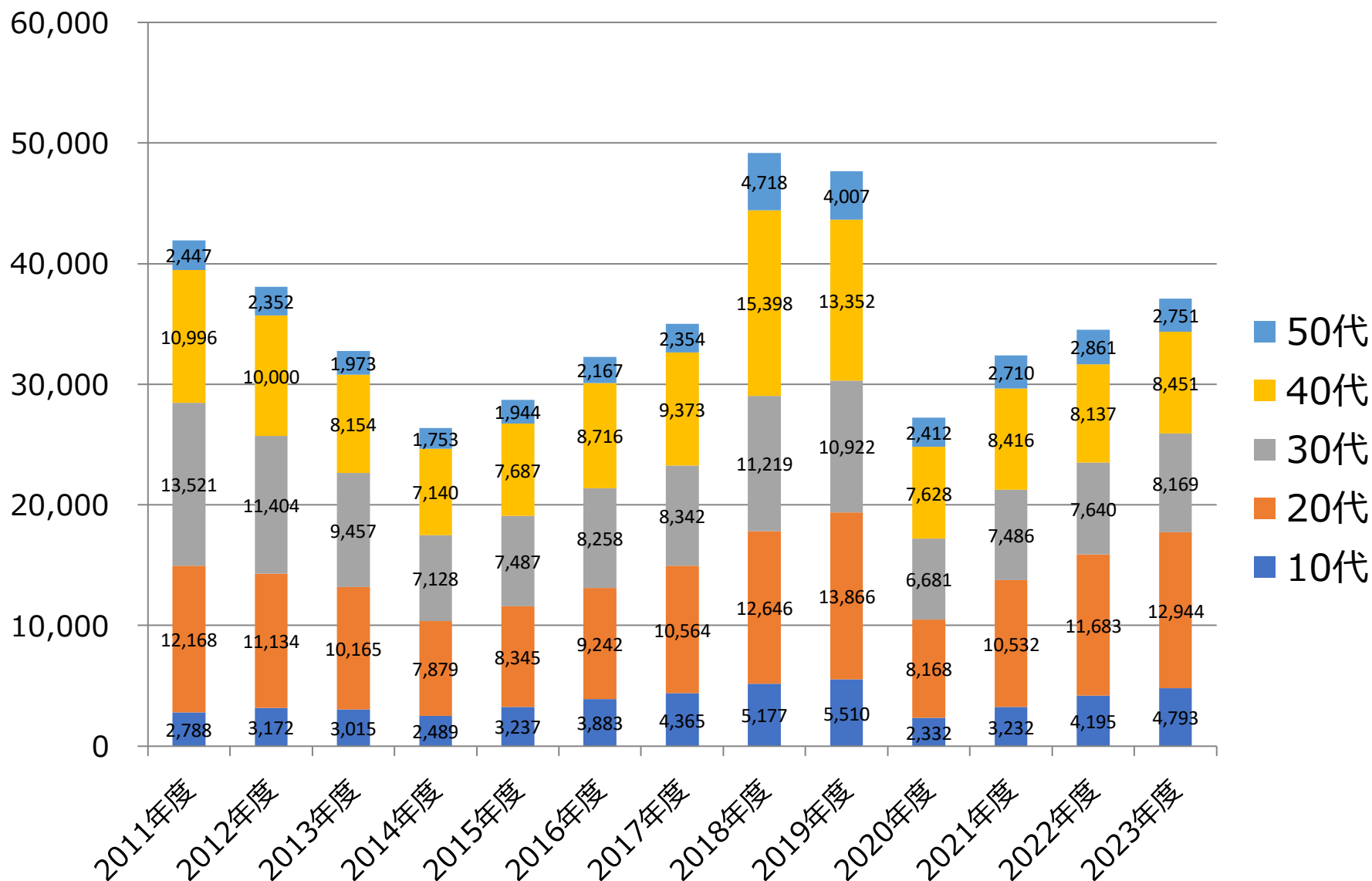
地方自治体	都道府県	法の基本理念に則り、国との適切な役割分担をふまえて、移植に用いる造血幹細胞の適切な提供に関する施策を策定し、主に以下の活動を実施する。 - 普及啓発 - 関係者間の連携確保を図るための連絡協議会などの設置運営 - 保健所におけるドナー登録受付 等	法第5条関係、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律の施行について」及び「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供に関する指針（ガイドライン）の制定について」（H25.12.27）など
	保健所設置市		
	特別区		

- (1) 骨髄・末梢血幹細胞提供希望者（以下、ドナーという）募集
のため の普及啓発
- (2) 「骨髄・末梢血幹細胞移植（以下、移植という）の円滑な
実施に結びつけるためのドナーへの説明、関係機関との
連絡調整（コーディネート）」
- (3) 骨髄・末梢血幹細胞採取に伴うドナーへの健康被害の補償
- (4) 移植に関する調査研究
- (5) 移植等に従事する者に対する研修
- (6) 造血幹細胞移植に関する国際協力
- (7) 低所得の患者に対する患者負担金軽減措置
- (8) その他、上記に関連する事業

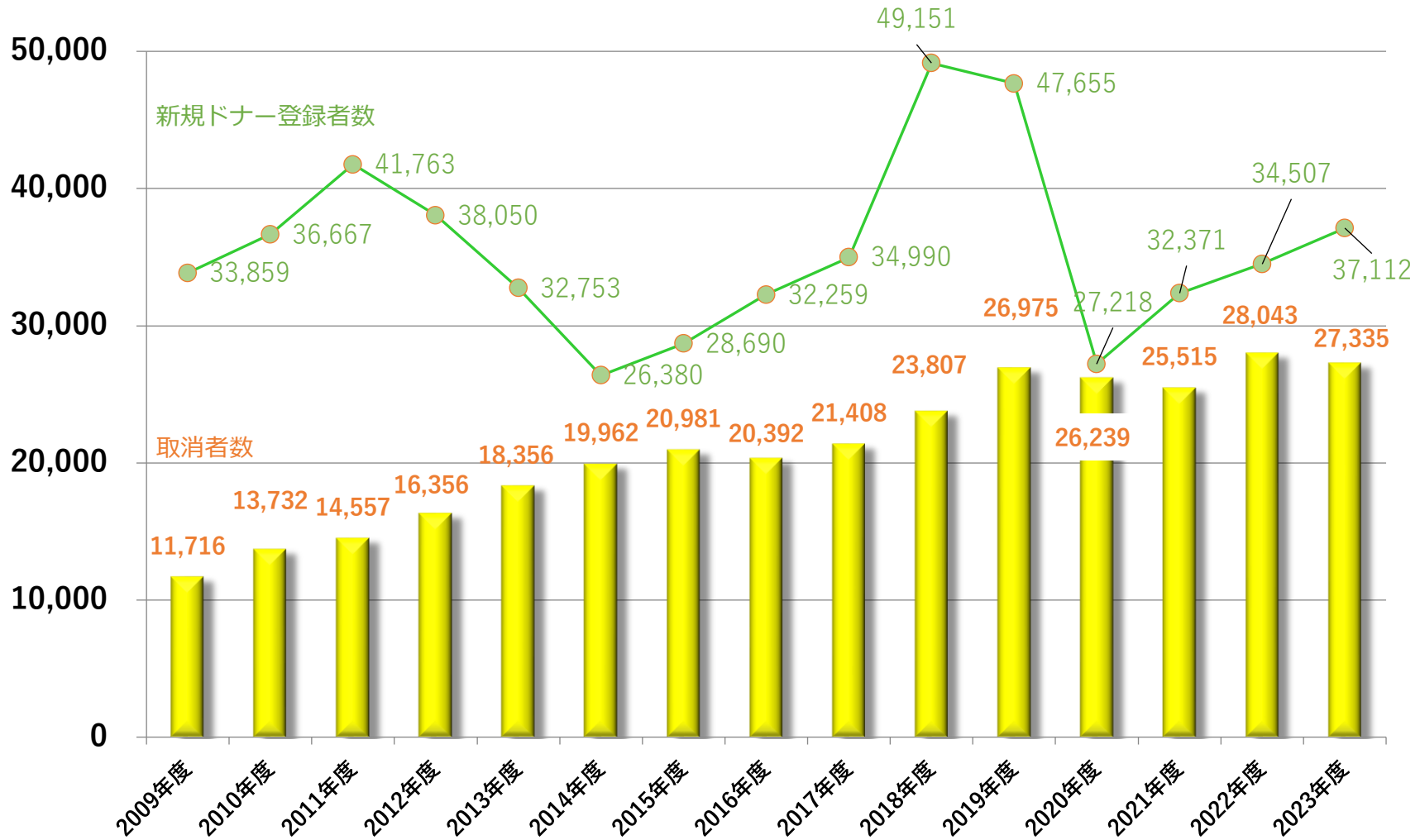
地方自治体による骨髄バンク事業推進例

- 既に献血を実施している大学や看護学校にドナー登録会の実施を相談
- 学校や若年層が多いと見込まれる献血会場に、ドナー登録会を選定し、説明員の派遣を調整
- 各大学、高校に骨髄バンクポスターや啓発用チラシを送付
- 新規採用県職員研修で骨髄バンクの周知啓発やドナー登録への協力を依頼
- 映画上映前広告にて骨髄バンクをPR
- 献血と併せて骨髄バンクPR動画の作成やセミナーを実施
- 大学や看護師養成校に語りべ講演やドナー公欠制度導入について意向を確認し、希望・関心がある学校へ実施・導入を相談
- 地元企業へドナー休暇制度の導入を依頼

新規ドナー登録者数の推移



新規ドナー登録者数と登録取消者数の推移



■ ドナー登録者現在数：554,123名

＜内訳＞	10代登録者数	： 4,081	（1%）
	20代	： 92,873	（17%）
	30代	： 136,220	（24%）
	40代	： 214,008	（39%）
	50代	： 106,941	（19%）

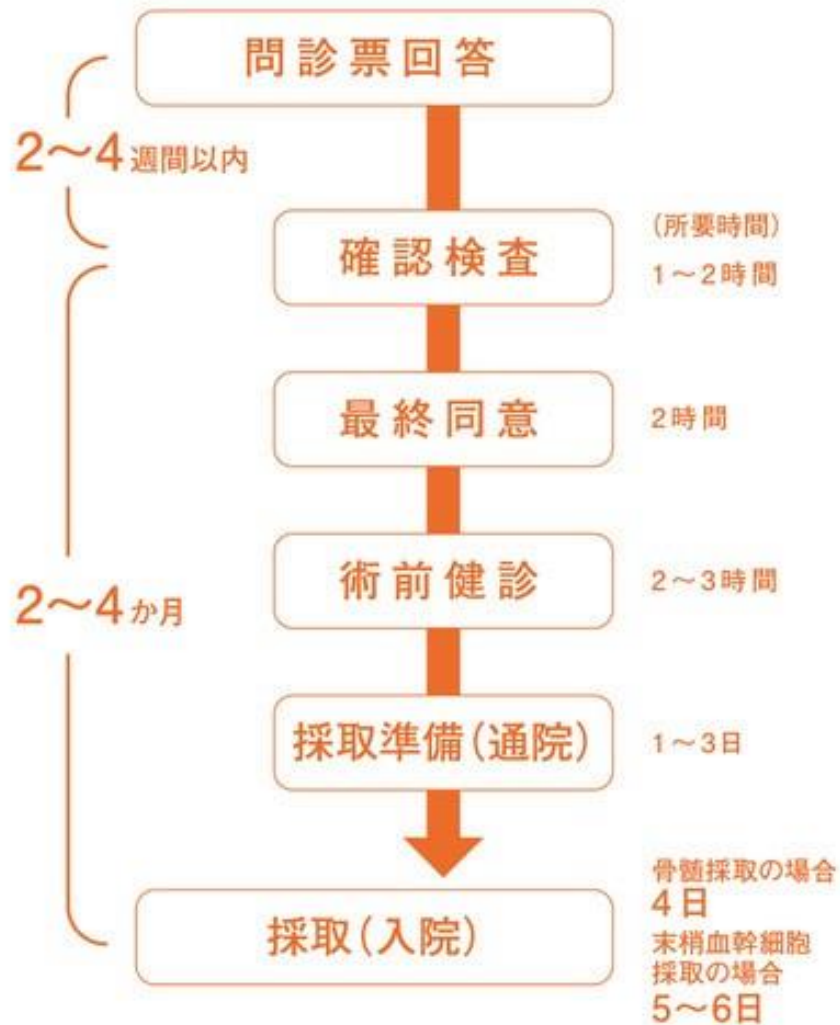
※40代以上が58%

■ 患者登録者現在数：1,652名 累計数：68,586名

■ 2023年度採取例数：1,092名 累計数：28,210名

■ 2023年度国内患者の移植率：6割未満

造血幹細胞提供までの流れ



骨髄バンクを介して骨髄・末梢血幹細胞提供をする場合、説明や検査のため、**平日の日中**に医療機関へ出向いていただく必要がある。

その回数は多い場合で**8回前後**にもなり、提供時の入院や採取後の健康診断を含めると、お仕事を休む日数が**10日以上**に及ぶことも珍しくない。

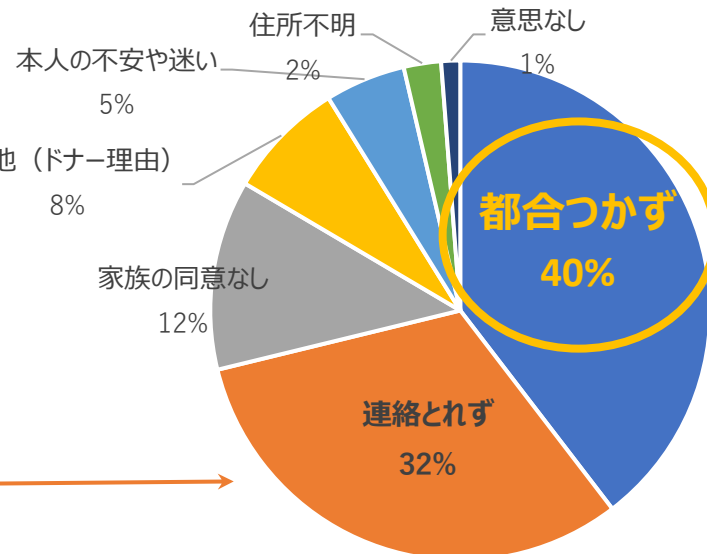
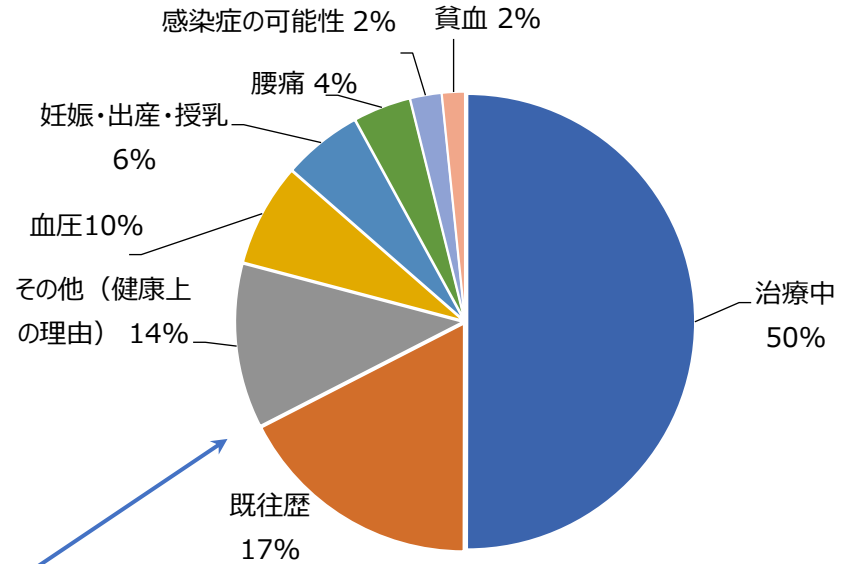
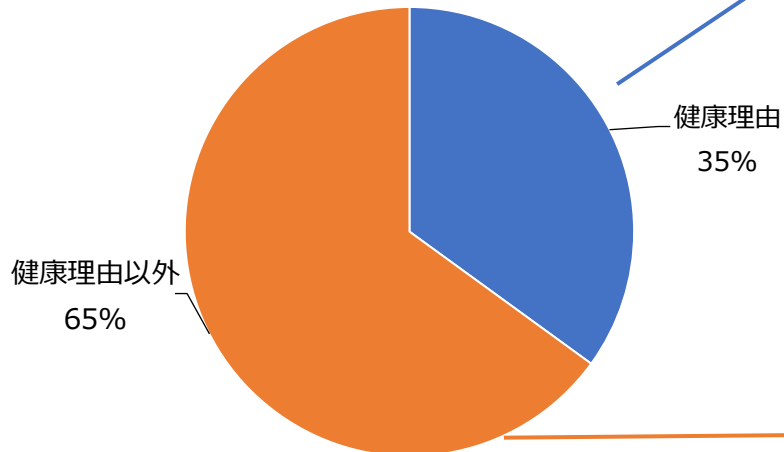
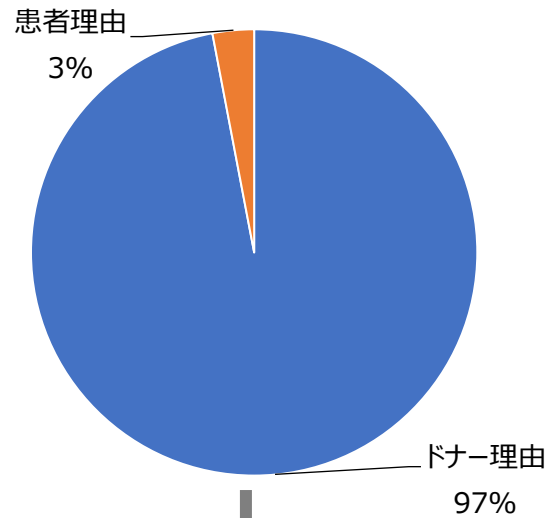
休みがとれず、提供を断念するドナーは少なくない。



コーディネート終了理由の内訳 (2022年度)

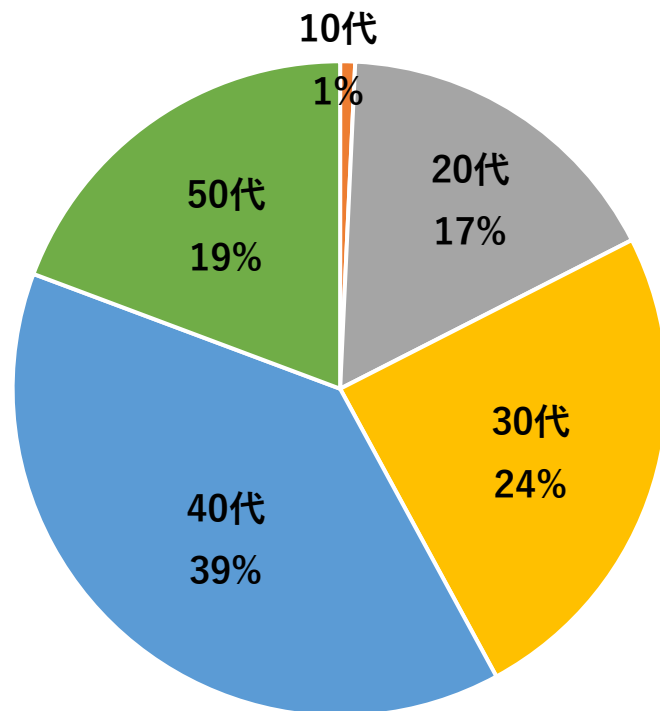
コーディネート開始件数 22,738件

(初期段階での終了件数 13,763件)



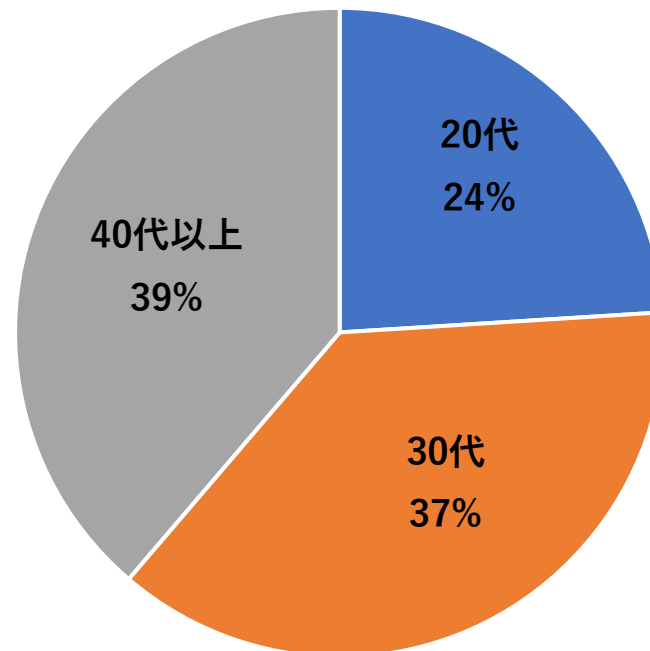
登録ドナー、提供ドナーの年代別比率

年代別ドナー登録者の比率



(2024年3月末時点)

年代別提供者の比率



(2024年3月末時点)

若年層ドナーは「健康上の理由によるコーディネート終了」が少ない上、移植後の治療成績が良いと言われ、選ばれやすい傾向（**20代・30代の提供者は全提供者の61%**）があるが、**登録者は40代・50代が過半（58%）**を占める。

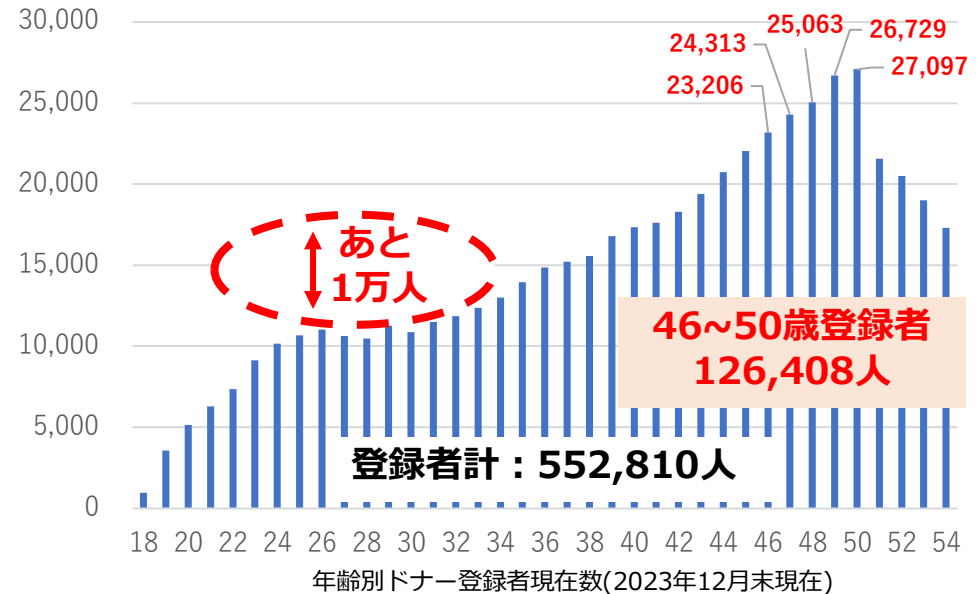
若年層を増やし移植成績向上を目指す

〔現状と課題〕

骨髄バンクドナーは55歳で登録取消となる。
ドナープールの最も多い年齢層は46歳～50歳と
高齢化している。（図1）
層の厚いドナーが3年後には登録抹消となることから
ドナープール縮小が見込まれる。

〔目標〕

白血病などの患者に対し、十分な移植を実施する
ためには移植成績のよい、若年層（39歳以下）
ドナーの登録が 年間3万人必要となる。



若年ドナーリクルートのための対策

1. スワブによるドナー登録時HLA検査導入 ⇒ オンライン登録フローの確立

オンライン申込とスワブ検査を組み合わせることで、取り寄せたスワブキットで採取した検体を郵送するだけでドナー登録が可能に。
利便性向上に加え、採血不要のため非献血人口へのリクルートを行うことが可能。

若年層は「現行の採血での登録ではなくオンライン登録&スワブ検査」を希望する傾向（厚労科研・豊嶋班）



2. 学域でのドナーリクルート強化

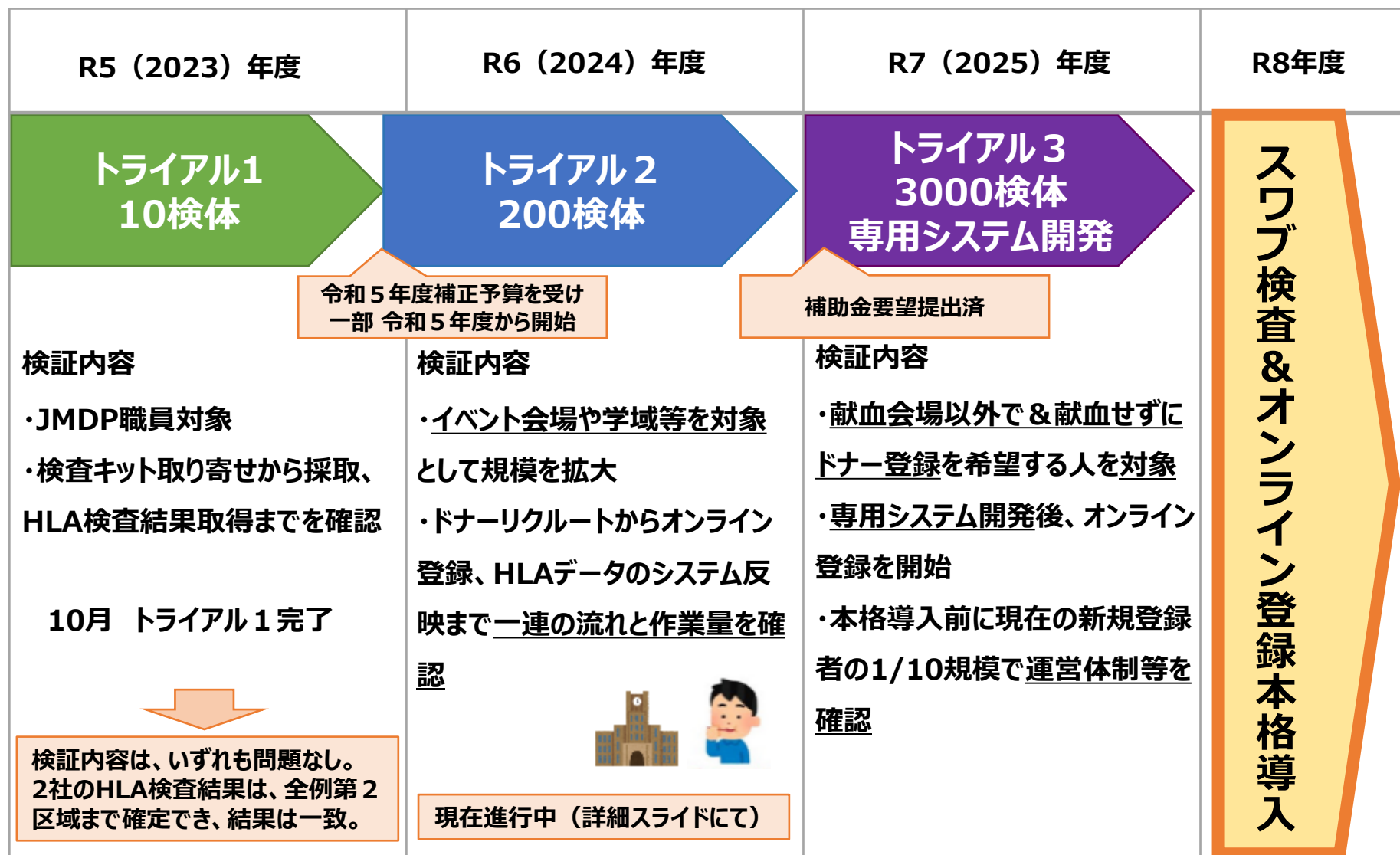
採血不要のスワブ検査なら献血併行の必要がないため、大学等と連携し、学域で様々な登録機会を提供することが可能。



3. 適切な情報発信によるドナーリクルート/ドナーリテンション/社会機運醸成

SNSやホームページから適切な情報発信を行い、登録希望者・ドナー登録者の提供意思決定をサポートし、若年ドナーが提供しやすい社会環境を導く。

骨髄バンクドナー スワブ検査&オンライン登録導入に向けたロードマップ^o



配布チラシ（サンプル）

スマートフォン・PCから登録できます！

骨髄バンクにドナー登録を！

*これまでドナー登録をされていない方が対象です

1



**オンライン
申し込み**

下の二次元コード
からお申し込み

2



**ご自宅で
採取**

検査キットを郵送で
お届けします。

3



ポスト投函

送料のご負担は
ありません。



会場コード

※会場コードはオンラインでの
申し込み時に入力が必要です。

※現在、トライアルとして期間・人数等を絞ってご案内
しています。予定数に達した時点で終了となります。
※左記の二次元コードは本チラシを受け取った方のみ
有効です。



(公財)日本骨髄バンクは、血液疾患の治療のために造血幹細胞
の移植を必要とする患者とドナーをつなぐ公的機関です。

お問合せ：日本骨髄バンク オンライン登録担当 03-5280-1789（平日9時～17時30分）



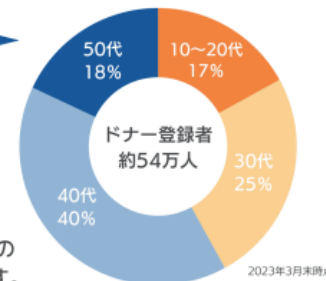
ドナー大幅減少の危機！

ドナー登録は55歳で卒業

現在、ドナー登録者の
6割近くが40代以上です。

骨髄バンクのドナーは
55歳で卒業のため、

このままでは、10年後にはドナーの
半分近くがいなくなってしまう。



患者さんのいのちを救うため、 より多くのドナー登録が必要です。

現在、ドナー登録者はおよそ55万人。

それでも、移植を希望する患者さんは**2人に1人しか
その希望が叶いません。**

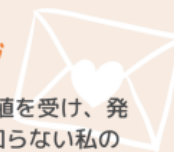
白血病など重い血液疾患の治療には、
白血球の型が適合するドナーからの移植が必要です。

しかし、その**適合の確率は数百～数万分の一。**
ドナーを見つけるのはとても難しいことなのです。

今、あなたの力を必要としています。

移植を受けた患者さんからのメッセージ

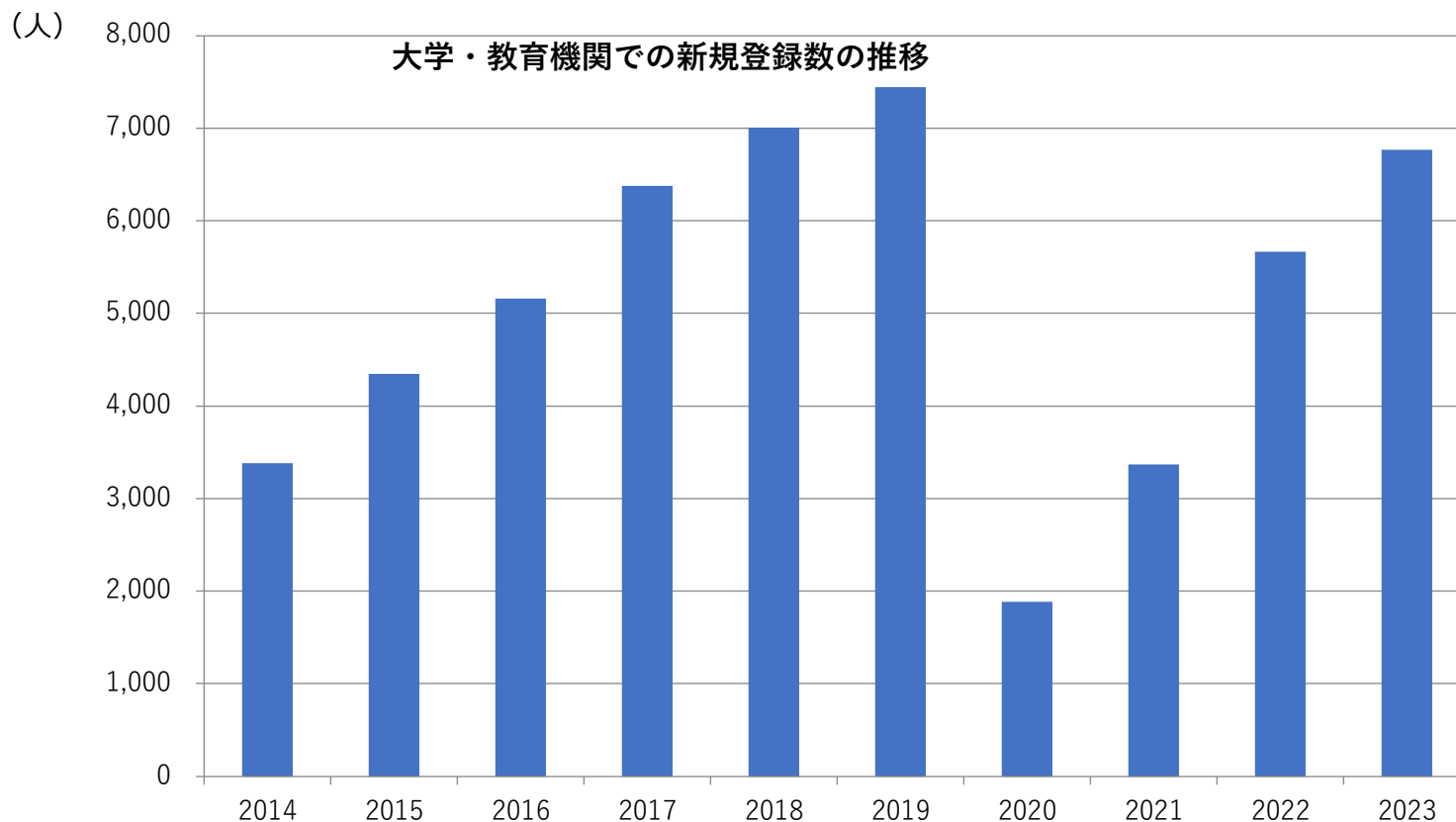
大学在学中に急性骨髄性白血病を発症しました。移植を受け、発
症から2年後に復学することができました。名前も知らない私の
ためにドナーになってくれたことは感謝してもしきれません。多
くの方に支えられて治療を乗り越えることができました。



若年層ドナー登録推進のために

骨髄バンクでは、移植後の治療成績が良く、登録期間が長い10代、20代への普及啓発に注力している。

大学献血におけるドナー登録会の実施や、10代、20代のボランティア「骨髄バンクユースアンバサダー制度」を導入、同世代への情報発信やドナー登録推進など、様々な活動を行っている



患者移植率向上のために ～ドナーが提供しやすい環境の整備～①

■ ドナー休暇制度

検査、面談、入院などのための休暇を、勤務先が特別休暇として認める制度。
「ボランティア休暇」などの適用範囲としている企業もあり、ドナーの心理的、肉体的な負担軽減となっている。現在800を超える企業が導入。さらなる導入の推進のため、企業・人事に向けた動画を新たに作成。（2024年3月末）

ドナー休暇制度導入のお願い（約6分）
～企業の人事・総務に向けた内容～

ドナー休暇制度をご存知ですか？（30秒）
～ドナー登録者に向けた内容～



<https://youtu.be/-lVdTjlxpO4>



<https://youtu.be/NagbC6OS0tI>

関係団体への周知し、企業への働きかけが必要

患者移植率向上のために ～ドナーが提供しやすい環境の整備～②

■ ドナー公欠制度

授業や出席日数を心配せずに大学を休むことができる制度。

通院日や入院日だけでなく、施設への移動日も公欠扱いとなる大学もあり、
14校で導入済み（※2024年4月15日）

■ 自治体によるドナー助成制度

自治体が助成金を支給する制度。

通院や入院のために仕事を休むことが減収につながる自営業者や非正規雇用者などのサポートが目的。全国1,718の自治体の内、1,000を超える自治体が導入。

仕事の休みがとれない、有給休暇がない社員、自営業や非正規労働者、授業が休めない学生などが提供できるよう、制度導入の働きかけが必要

語りべ講演会とは

健康を取り戻した移植患者さん・提供者さんによる貴重な体験をお伝えします。

「いのちの大切さ」を伝えることで、若い世代の方々にドナー登録や提供について考える機会としていただいております、教育機関や、20代・30代が多く在籍する企業の新人研修などでの開催を呼びかけています。

※オンラインでの開催を推奨しています。



～専門学校での語りべ講演～

生徒さんの感想（一部抜粋）

移植の内容などは、インターネットなどで知ることができてしまうけど、実際に闘病した苦しみや感じたことは調べてもインターネットでは出てこない。直接お話を聞くことができ、自分も病気と闘っている人を助けることができるかもしれない、と感ずることができました。（東京都・中学3年生）

僕は死ぬのが怖い。でも誰かが死ぬのも同じぐらい嫌だ。そう思うとドナー登録してもいいような気がした。（和歌山県・中学2年生）

語りべ講演会開催について

～開催の流れ～

- ①講演希望日の1～3か月前に当法人に連絡
- ②主催者が計画書を提出
※地区普及広報委員・説明員特設サイトからダウンロード可能
https://www.jmdp.or.jp/setsumeijin_info.html?openExternalBrowser=1
- ③当法人が語りべ講演者を調整
※講演料・交通費は当法人が負担（**オンライン推奨**）
- ④講演会場、PC、プロジェクター、Web会議システム（オンラインの場合）をご用意ください
- ⑤講演会開催
実施後、報告書のご提出をお願いします

～一般的なプログラム～

【大学・専門学校などでの講義時間(90分)】

- | | |
|--------------|-----|
| ①骨髄バンクの現状と課題 | 15分 |
| ②移植経験者からの講演 | 30分 |
| ③提供経験者からの講演 | 30分 |
| ④質疑応答 | 15分 |

【高校・企業などでの講演時間(50分)】

- | | |
|--------------|-----|
| ①骨髄バンクの現状と課題 | 15分 |
| ②移植経験者からの講演 | 25分 |
| ③質疑応答 | 10分 |

※移植経験者単独の講演（20分程度）も可能です。

■お問合せ

公益財団法人 日本骨髄バンク 広報渉外部 語りべ講演会担当 井内、中屋、大上、鈴木
TEL：03-5280-1789/Email：kouhou@jmdp.or.jp